

令和7年12月 9日
事業推進担当課

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 主旨

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的として実施している。

今回、令和7年4月に実施した全国学力・学習状況調査について、令和7年9月に速報値について報告したところであるが、この度結果を分析してまとめたので報告する。

2 調査結果

別紙「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果分析報告書」のとおり。

3 結果の概要

- (1) 教科に関しては、小学校国語・算数・理科、中学校国語・数学の区平均正答率及び中学校理科の平均IRTスコアは、都・国を上回っており、良好であるといえる。
- (2) 質問紙に関しては、「キャリア教育」、「せたがや探究的な学び」、「非認知能力」の観点から、児童・生徒が主体的に学びに向かう肯定的な回答の割合が上昇している傾向が読み取れる。
- (3) 教科の結果と質問紙のクロス集計結果からは、肯定的な回答をした児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高くなる傾向が見られ、非認知能力と認知能力について相関関係があるといえる。

4 今後の取組み

- (1) 教育委員会は、本報告書を各学校へ示し、自校の児童・生徒の状況と比較し、今後の指導方法の改善・充実に生かすよう指導する。
- (2) 幼稚園・こども園、小学校、中学校それぞれの校園種において、幼児期からの学びの連続性による非認知能力を育成することで認知能力が向上するとの仮説を引き続き検証する。

5 スケジュール

令和7年12月 各学校に別紙「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果分析報告書」送付

令和7年度
全国学力・学習状況調査の
結果分析報告書

令和7年12月
世田谷区教育委員会

— 目 次 —

| | | | |
|--------------------------|------|--|--------|
| 1 | 調査概要 | | - 1 - |
| 2 教科に関する調査結果概要 | | | |
| - 1 教科に関する調査結果 | | | |
| 小学校 国語 | | | - 2 - |
| 算数 | | | - 2 - |
| 理科 | | | - 3 - |
| 中学校 国語 | | | - 4 - |
| 数学 | | | - 4 - |
| 理科 | | | - 5 - |
| 3 質問紙調査結果（児童・生徒） | | | |
| - 1 「キャリア教育」に関する視点から | | | - 6 - |
| - 2 「せたがや探究的な学び」に関する視点から | | | - 7 - |
| - 3 「非認知能力」に関する視点から | | | - 8 - |
| 4 クロス集計結果より | | | - 11 - |

1 調査概要

- ◆ 調査日時 令和7年4月17日（木）
- ◆ 調査事項
 - ① 小学校6年生 質問紙 教科：国語 算数 理科
 - ② 中学校3年生 質問紙 教科：国語 数学 理科
- ◆ 調査目的
 - ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ② 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ③ ①②を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ◆ 調査内容
 - ① 教科「国語」：知識・技能等、活用を一体的に問う問題
 - ② 教科「算数・数学」：知識・技能等、活用を一体的に問う問題
 - ③ 教科「理科」：知識・技能等、活用を一体的に問う問題
中学校理科は、生徒が活用するICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステムによるオンライン方式で実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。
 - ④ 質問紙調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査（児童・生徒、学校）
- ◆ 対象の児童・生徒数・学校数

小学校調査

| | 調査児童数 | | | | 調査対象学校数 | 実施学校数 |
|-------|----------|----------|----------|----------|---------|---------|
| | 国語 | 算数 | 理科 | 質問紙 | | |
| 世田谷区立 | 5,938人 | 5,937人 | 5,941人 | 5,790人 | 61校 | 61校 |
| 公立学校 | 953,229人 | 953,364人 | 953,429人 | 937,001人 | 18,313校 | 18,289校 |
| 国立学校 | 6,211人 | 6,208人 | 6,211人 | 6,116人 | 75校 | 75校 |
| 私立学校 | 6,729人 | 6,732人 | 6,732人 | 6,453人 | 251校 | 128校 |
| 合計 | 966,169人 | 966,304人 | 966,372人 | 949,570人 | 18,639校 | 18,492校 |

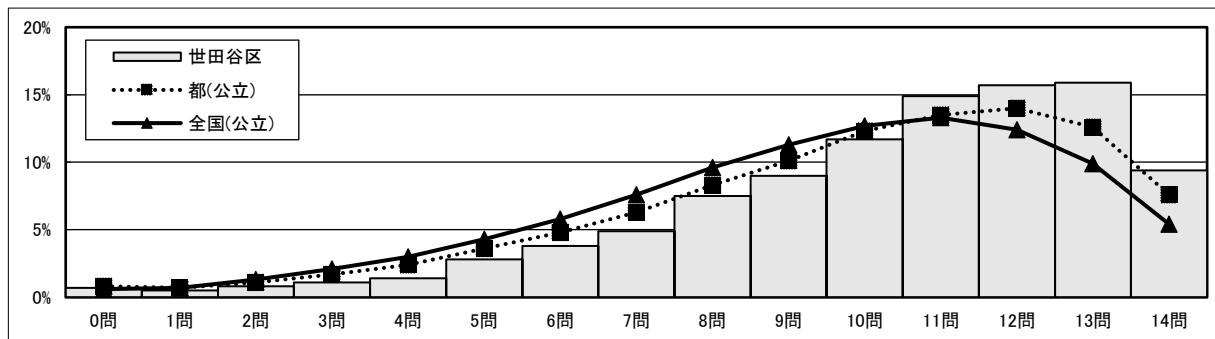
中学校調査

| | 調査児童数 | | | | 調査対象学校数 | 実施学校数 |
|-------|----------|----------|----------|----------|---------|--------|
| | 国語 | 数学 | 理科 | 質問紙 | | |
| 世田谷区立 | 3,565人 | 3,568人 | 3,410人 | 3,565人 | 29校 | 29校 |
| 公立学校 | 877,143人 | 877,654人 | 877,082人 | 877,839人 | 9,311校 | 9,291校 |
| 国立学校 | 9,543人 | 9,551人 | 9,443人 | 9,454人 | 80校 | 80校 |
| 私立学校 | 17,777人 | 17,803人 | 17,003人 | 17,120人 | 803校 | 240校 |
| 合計 | 904,463人 | 905,008人 | 903,528人 | 904,413人 | 10,194校 | 9,611校 |

※ 2ページ以降「2 教科に関する調査結果概要」〈指導のポイント〉では、「令和7年度全国学力・学習状況調査報告書」（文部科学省 国立教育政策研究所）より引用、一部改変している。

2 教科に関する調査結果概要

小学校 国語 正答数分布グラフ (横軸: 正答数、縦軸: 児童の割合) 問題数: 14問



分類・区別集計結果 (%) >

| | | 世田谷区 | 都(公立) | 国(公立) |
|--------------|--------------------|-------------|-------|-------|
| 平均正答率 | | 74.0 | 70.0 | 66.8 |
| 知識及び技能 | (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 | 81.6 | 77.9 | 76.9 |
| | (2)情報の扱い方に関する事項 | 70.4 | 66.9 | 63.1 |
| | (3)我が国の言語文化に関する事項 | 87.0 | 83.8 | 81.2 |
| 思考力、判断力、表現力等 | A話すこと・聞くこと | 72.2 | 69.9 | 66.3 |
| | B書くこと | 76.0 | 72.4 | 69.5 |
| | C読むこと | 66.6 | 61.0 | 57.5 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 80.2 | 76.6 | 74.5 |
| | 思考・判断・表現 | 71.1 | 67.1 | 63.8 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | --- | --- | --- |
| 問題形式 | 選択式 | 72.4 | 68.7 | 64.7 |
| | 短答式 | 83.8 | 80.0 | 78.5 |
| | 記述式 | 64.2 | 59.3 | 58.8 |

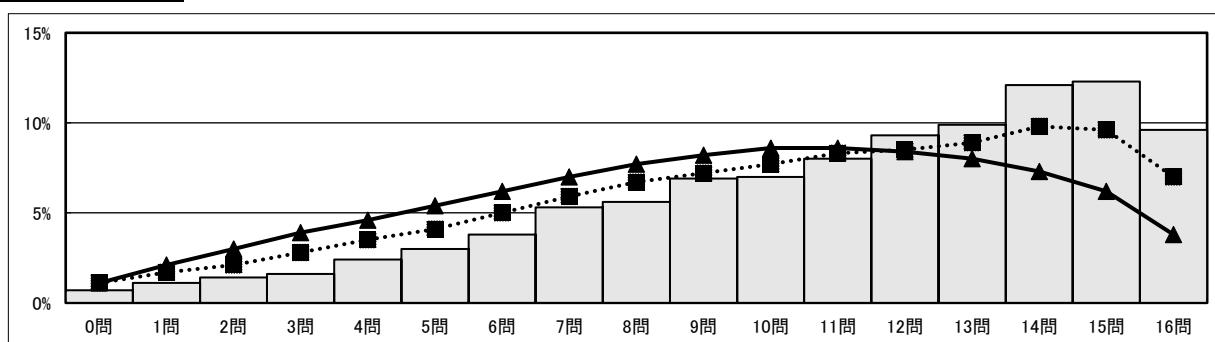
調査結果のポイント >

区の平均正答率は74%で、すべての内容において全国・東京都を上回っている。

指導のポイント >

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。必要な情報を見付けるためには、文章の要旨を捉えた上で、図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしながら、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要である。目的に応じて必要な情報かどうかを確かめたり、情報と情報がどのような関係にあるのかを考えたりしながら読むことが大切である。

小学校 算数 正答数分布グラフ (横軸: 正答数、縦軸: 児童の割合) 問題数: 16問



分類・区別集計結果 (%) >

| | | 世田谷区 | 都(公立) | 国(公立) |
|-----------|---------------|-------------|-------|-------|
| 平均正答率 | | 69.0 | 64.0 | 58.0 |
| 学習指導要領の領域 | A数と計算 | 73.6 | 68.3 | 62.3 |
| | B図形 | 66.5 | 61.2 | 56.2 |
| | C測定 | 67.3 | 60.5 | 54.8 |
| | C変化と関係 | 71.6 | 64.9 | 57.5 |
| | Dデータの活用 | 72.4 | 67.6 | 62.6 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 75.9 | 70.9 | 65.5 |
| | 思考・判断・表現 | 60.3 | 54.4 | 48.3 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | --- | --- | --- |
| 問題形式 | 選択式 | 78.8 | 73.5 | 67.2 |
| | 短答式 | 74.2 | 69.3 | 64.0 |
| | 記述式 | 46.7 | 40.7 | 34.9 |

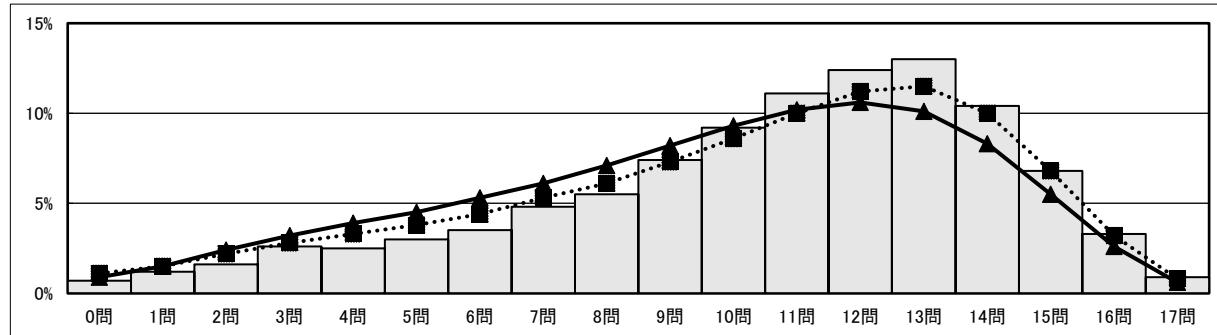
調査結果のポイント >

区の平均正答率は69%で、すべての内容において全国・東京都を上回っている。

指導のポイント >

データの取り出しについて課題がある。様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、グラフのどの部分やどの数値に着目したのかを説明するなど、その判断の理由を他者に分かりやすく言語化し、表現できるようにすることが重要である。

小学校 理科 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合） 問題数：17問



＜分類・区別集計結果（%）＞

| | 世田谷区 | 都(公立) | 国(公立) | |
|-----------|----------------|-------------|-------|------|
| 平均正答率 | 62.0 | 60.0 | 57.1 | |
| 学習指導要領の領域 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 52.8 | 49.9 | 46.7 |
| | 「粒子」を柱とする領域 | 55.9 | 53.7 | 51.4 |
| | 「生命」を柱とする領域 | 55.8 | 54.1 | 52.0 |
| | 「地球」を柱とする領域 | 71.5 | 69.1 | 66.7 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 60.5 | 57.7 | 55.3 |
| | 思考・判断・表現 | 62.9 | 61.2 | 58.7 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | --- | --- | --- |
| 問題形式 | 選択式 | 60.3 | 57.9 | 54.7 |
| | 短答式 | 73.5 | 70.6 | 69.7 |
| | 記述式 | 46.6 | 46.6 | 45.2 |

＜調査結果のポイント＞

区の平均正答率は62%で、すべての領域において全国・東京都を上回っている。

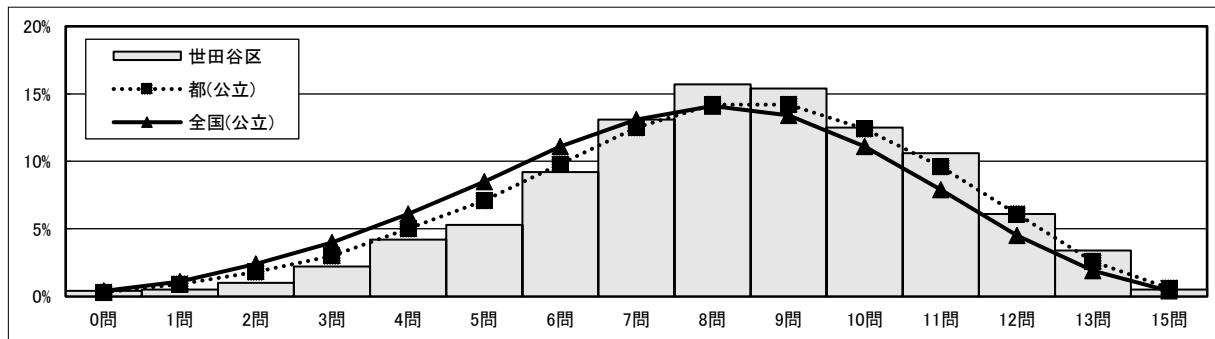
＜指導のポイント＞

植物の発芽の条件と差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することに課題がある。自然の事物・現象に働きかけて得た事実に基づいて、問題を見いだすことができるよう、事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるよう指導することが大切である。さらに、計画した方法が予想を確かめられるかを検討し、改善する過程を通して、科学的な思考力を高められるように指導することが重要である。

中学校 国語

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

問題数：15問



<分類・区別集計結果（%）>

| | 世田谷区 | 都(公立) | 国(公立) | |
|--------------|--------------------|-------|-------|------|
| 平均正答率 | 59.0 | 57.0 | 54.3 | |
| 知識及び技能 | (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 | 53.0 | 51.7 | 48.1 |
| | (2)情報の扱い方に関する事項 | --- | --- | --- |
| | (3)我が国の言語文化に関する事項 | --- | --- | --- |
| 思考力、判断力、表現力等 | A話すこと・聞くこと | 57.6 | 55.0 | 53.2 |
| | B書くこと | 57.7 | 56.5 | 52.8 |
| | C読むこと | 67.8 | 65.0 | 62.3 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 53.0 | 51.7 | 48.1 |
| | 思考・判断・表現 | 60.2 | 58.1 | 55.3 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | --- | --- | --- |
| 問題形式 | 選択式 | 69.0 | 67.1 | 63.9 |
| | 短答式 | 77.0 | 75.5 | 73.6 |
| | 記述式 | 30.5 | 28.2 | 25.3 |

<調査結果のポイント>

区の平均正答率は59%で、すべての内容において全国・東京都を上回っている。

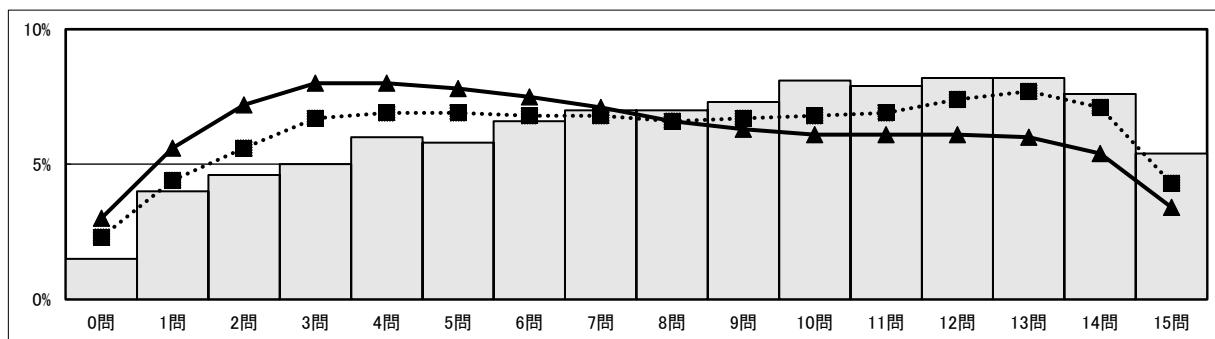
<指導のポイント>

自分の考えが伝わる文章になるよう根拠を明確にして書くこと課題がある。自分の考えが伝わる文章にするためには、意見とそれを支える根拠を明確にして書くことが重要である。根拠を明確にするために、まず自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめることが必要である。接続する語句や指示する語句を用いるなどして、伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり事実などを具体的に書くよう指導することが大切である。

中学校 数学

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

問題数：15問



<分類・区別集計結果（%）>

| | 世田谷区 | 都(公立) | 国(公立) | |
|-----------|---------------|-------|-------|------|
| 平均正答率 | 57.0 | 53.0 | 48.3 | |
| 学習指導要領の領域 | A数と式 | 52.9 | 49.1 | 43.5 |
| | B図形 | 54.0 | 51.4 | 46.5 |
| | C関数 | 55.9 | 52.4 | 48.2 |
| | Dデータの活用 | 67.1 | 63.1 | 58.6 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 61.0 | 58.3 | 54.4 |
| | 思考・判断・表現 | 50.1 | 45.4 | 39.1 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | --- | --- | --- |
| 問題形式 | 選択式 | 61.3 | 58.2 | 54.0 |
| | 短答式 | 59.1 | 56.3 | 52.0 |
| | 記述式 | 50.4 | 45.7 | 39.6 |

<調査結果のポイント>

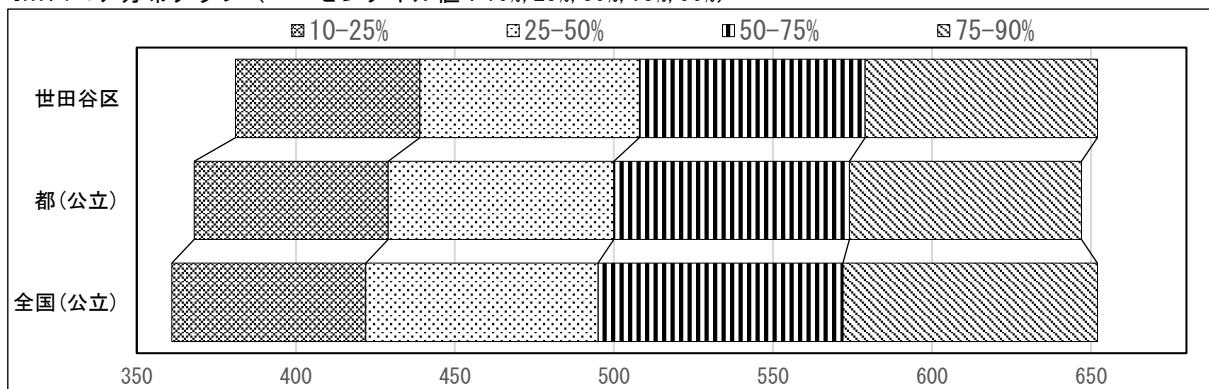
区の平均正答率は57%で、すべての内容において全国・東京都を上回っている。

<指導のポイント>

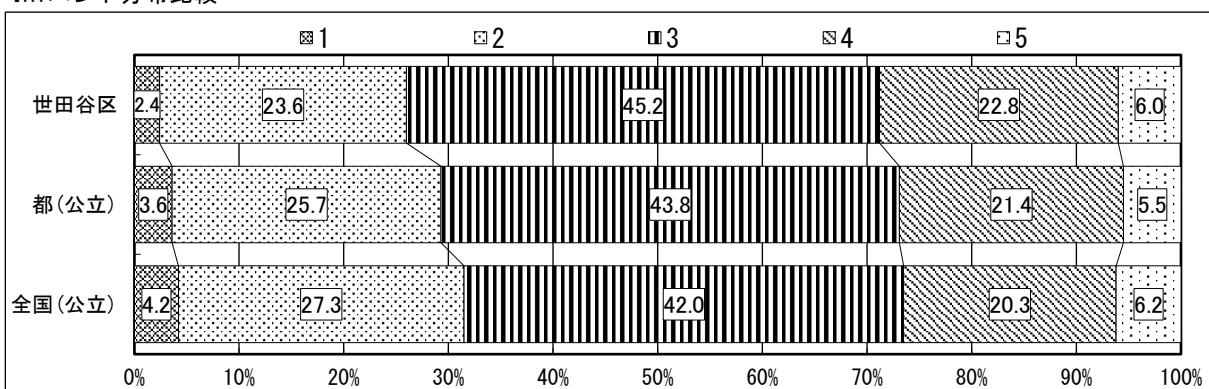
図形領域では、統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することに課題がある。証明したことを基に、条件を変えた場合の証明について考察する場面を設定し、条件を変えてても変わらない関係や、条件を変えると変わる関係を見いだし、元の証明を評価・改善することにより条件を変えた場合の証明ができるように指導することが大切である。

中学校 理科

IRTスコア分布グラフ (パーセンタイル値: 10%, 25%, 50%, 75%, 90%)



IRTバンド分布比較



| | 世田谷区 | 都（公立） | 国（公立） |
|----------|------|-------|-------|
| 平均IRTスコア | 514 | 506 | 503 |

| 観点 | 難易度 | 正答率 | | |
|----------|-----|------|-------|-------|
| | | 世田谷区 | 都（公立） | 国（公立） |
| 知識・技能 | 1 | 93.5 | 93.5 | 93.0 |
| | 2 | 92.1 | 92.6 | 90.9 |
| | 4 | 58.8 | 58.9 | 56.3 |
| | 5 | 46.5 | 44.0 | 44.4 |
| 思考・判断・表現 | 3 | 82.6 | 80.3 | 79.4 |
| | 4 | 45.0 | 43.1 | 42.5 |
| | 5 | 32.2 | 31.6 | 30.9 |

※ 世田谷区の数値については、生徒ごとに異なる問題が出題されているため、IRTにより全生徒が解答したとした予測値による。

| 分野 | 難易度 | 正答率 | | |
|-------|-----|------|-------|-------|
| | | 世田谷区 | 都（公立） | 国（公立） |
| エネルギー | 2 | 91.1 | 91.2 | 89.9 |
| | 5 | 34.7 | 34.0 | 33.6 |
| | 1 | 93.5 | 93.5 | 93.0 |
| | 2 | 94.2 | 95.3 | 92.8 |
| 粒子 | 3 | 82.6 | 80.3 | 79.4 |
| | 4 | 46.6 | 45.6 | 43.6 |
| | 5 | 48.9 | 47.4 | 48.9 |
| | 4 | 55.4 | 53.3 | 53.9 |
| 生命 | 5 | 41.4 | 38.6 | 38.7 |
| | 4 | 53.0 | 52.8 | 50.2 |
| 地球 | 5 | 30.1 | 29.9 | 28.7 |
| | 4 | | | |

<調査結果のポイント>

区の平均IRTスコアは514であり、全国・東京都を上回っている。IRTスコアが350以下の生徒の割合が少なく、450～550の生徒の割合が多い。

<CBTとIRTについて>

- CBT (Computer Based Testing)
コンピューターを用いて答えを選択・入力して解答する試験方式。
- IRT (Item Response Theory)
Item Response Theory : 項目反応理論
個々の項目が持つ困難度や識別力などを考慮し、受験者の正答する確率から能力値を推定する方法。
500点が基準スコア (PISA、TIMSS、TOEIC、TOEFL等もIRTによる評価)。スコアによる5段階評価を「IRTバンド」と呼ぶ。

<指導のポイント>

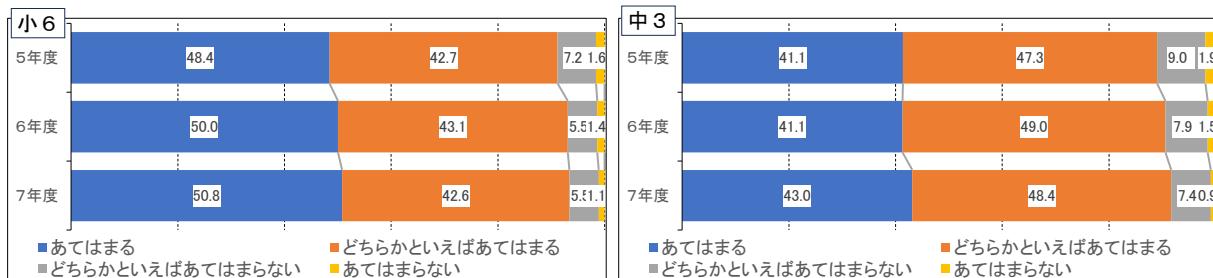
元素を記号で表すことに関する知識及び技能に課題がある。物質やその変化を理解するために、元素記号の意味と表し方を身に付け、記号を用いて記述できるように指導することが大切である。

3 質問紙調査結果（児童・生徒）

－1 キャリア教育に関する視点から

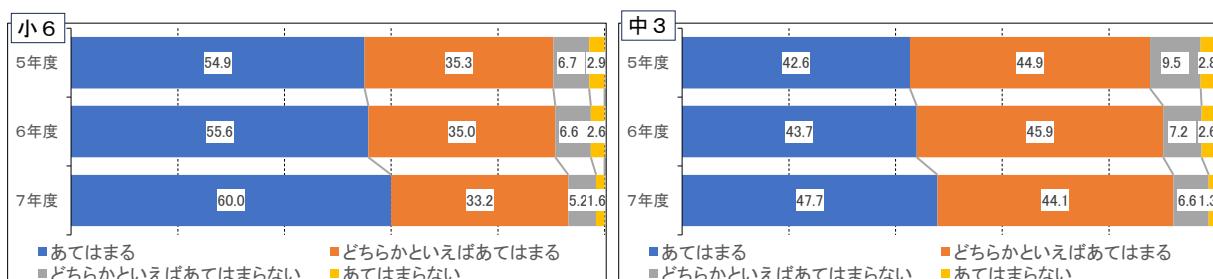
◆ 「人間関係形成能力・社会形成能力」に関する項目

(8) 人が困っているときは、進んで助けていますか



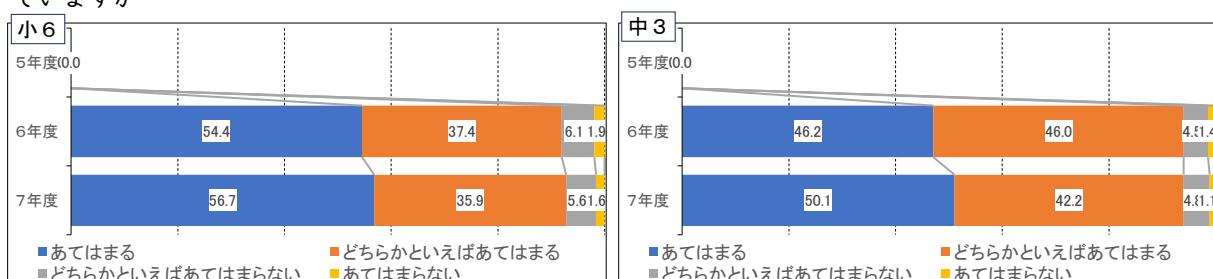
◆ 「自己理解・自己管理能力」に関する項目

(6) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



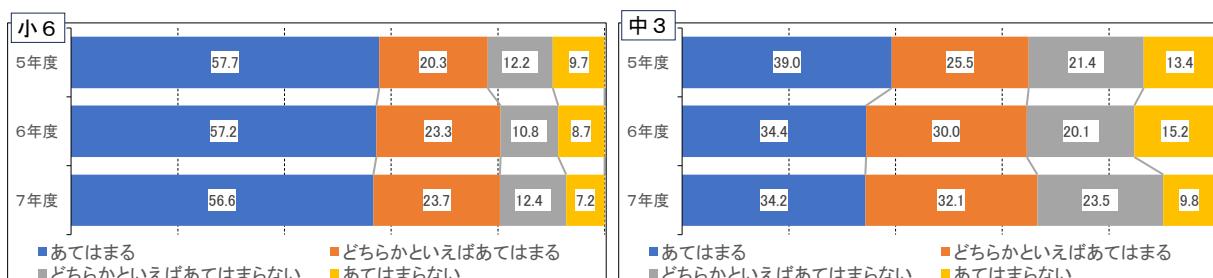
◆ 「課題対応能力」に関する項目

(39) 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



◆ 「キャリアプランニング能力」に関する項目

(7) 将来の夢や目標を持っていますか



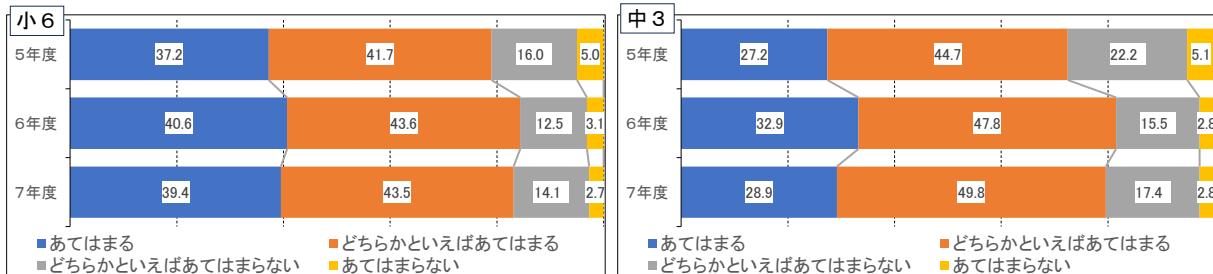
＜調査結果のポイント＞

- (8) 「人が困っているときは…」に肯定的に回答した児童・生徒の割合は小・中学校ともに上昇傾向にある。
 (6) 「先生は、あなたの…」に、肯定的に回答した児童・生徒の割合は小学校・中学校とも上昇傾向にある。
 (39) 「授業や学校生活では…」に、肯定的に回答した児童・生徒の割合は、小学校では高い傾向のまま上昇傾向にある。中学校では高い傾向のまま横ばいである。
 (7) 「将来の夢や…」に、肯定的に回答した回答した児童・生徒の割合は小学校は横ばい、中学校では上昇傾向にある。
 ◇総括
 令和4年度から区内全校で推進している「キャリア教育」が実践されたことにより、全体的な傾向としては子どもの肯定的な意識の変容に成果をあげていることが考察される。

－2 「せたがや探究的な学び」に関する視点から

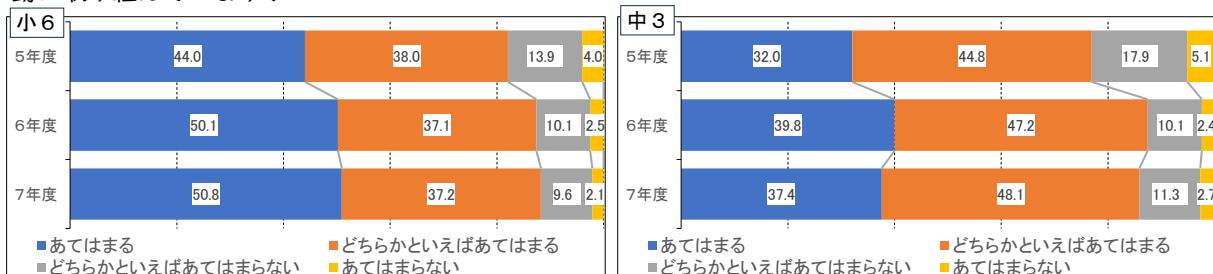
◆ 「学びを振り返り、次につなげている」に関する項目

(36) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか



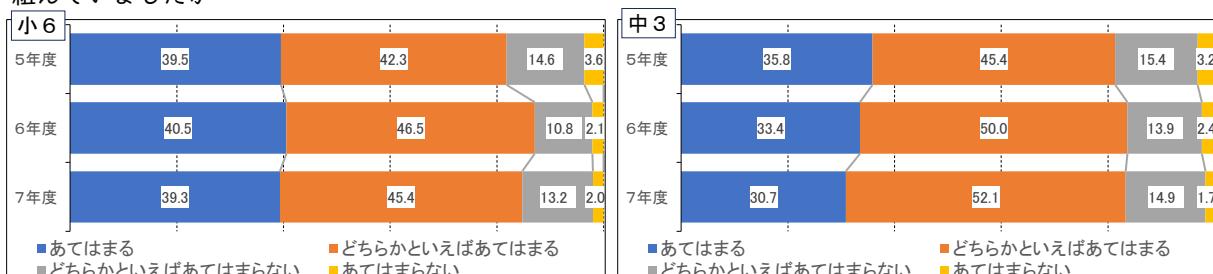
◆ 「課題を見出し把握している」に関する項目

(40) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



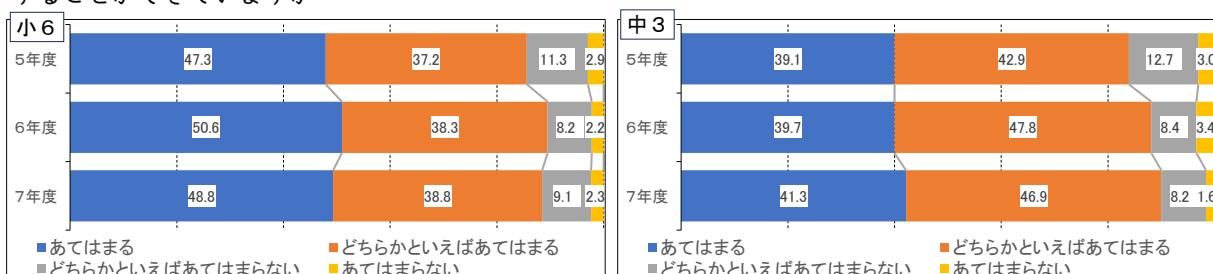
◆ 「課題解決の方法を考えている」に関する項目

(32) 5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



◆ 「協働して学んでいる」に関する項目

(35) 学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか



＜調査結果のポイント＞

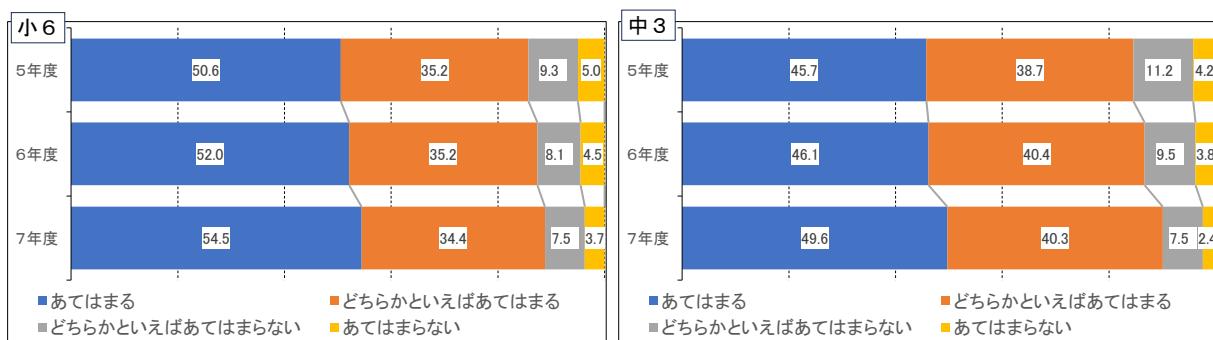
- (36) 「学習した内容について…」に肯定的に回答した児童・生徒の割合は一定の水準を保っている。
 (40) 「総合的な学習の時間では…」に、肯定的に回答した児童・生徒の割合は小学校では上昇傾向、中学校は一定の水準を保っている。
 (32) 「5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業では…」に肯定的に回答した児童・生徒の割合は小・中学校ともに一定の水準は保っている。
 (35) 「学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて…」に、肯定的に回答した児童・生徒の割合は小学校はほぼ横ばい、中学校では上昇傾向である。
 ◇総括
 令和4年度から区内全校で推進している「せたがや探究的な学び」が各校で実践されたことにより、子どもの姿の変容に成果をあげていることが考察される。

- 3 「非認知能力」に関する視点から

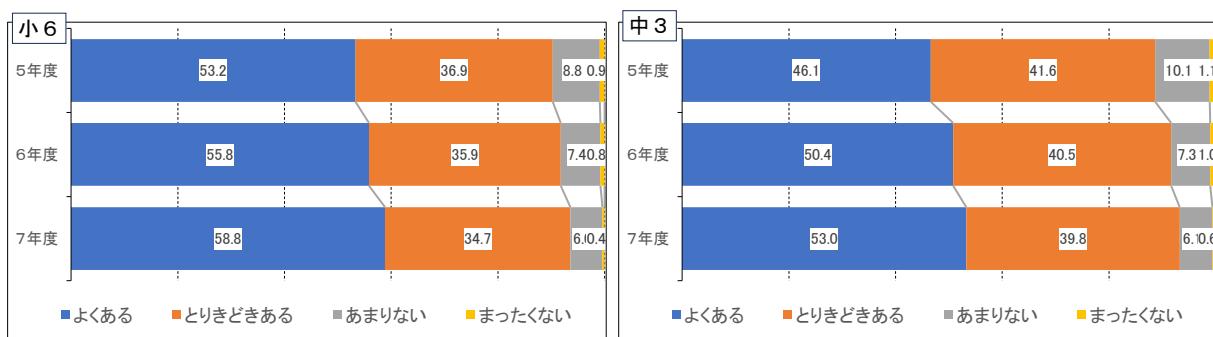
※OECDでは非認知能力に値する力を「社会情動的スキル (Social and Emotional Skills)」と呼んでいます。

◆ 「自己肯定感」に関する項目

(5) 自分には、よいところがあると思いますか

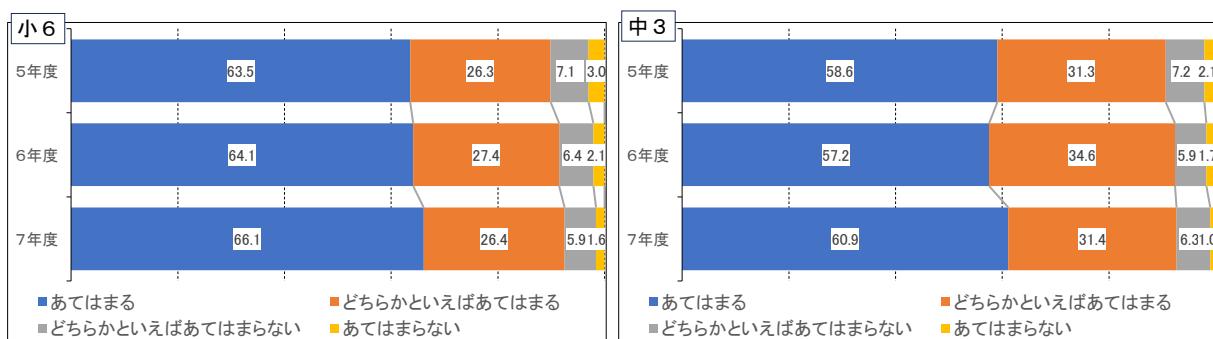


(15) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

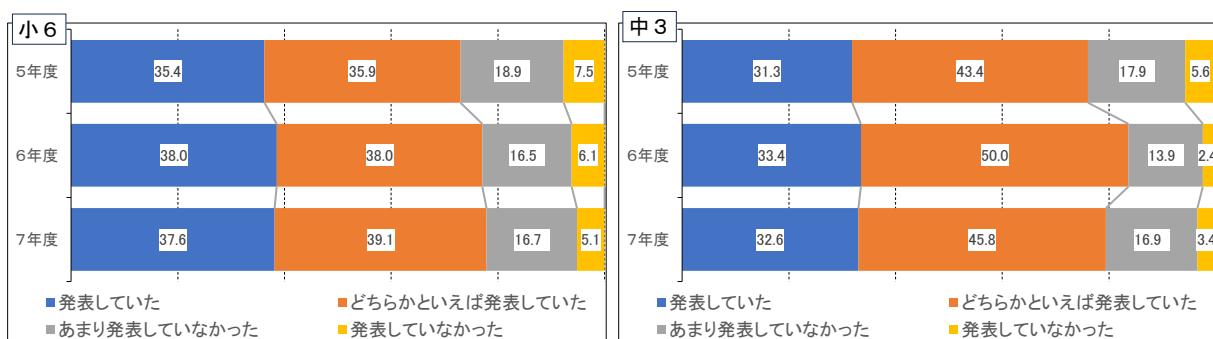


◆ 「コミュニケーション力」に関する項目

(14) 友達関係に満足していますか

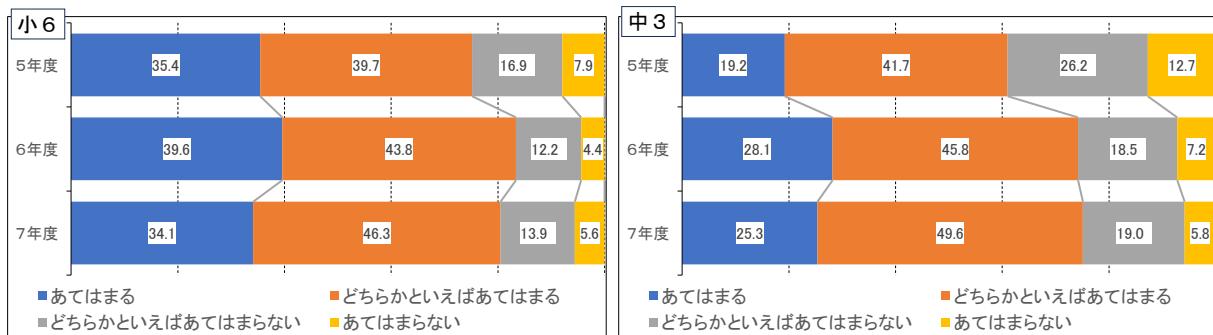


(31) 5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

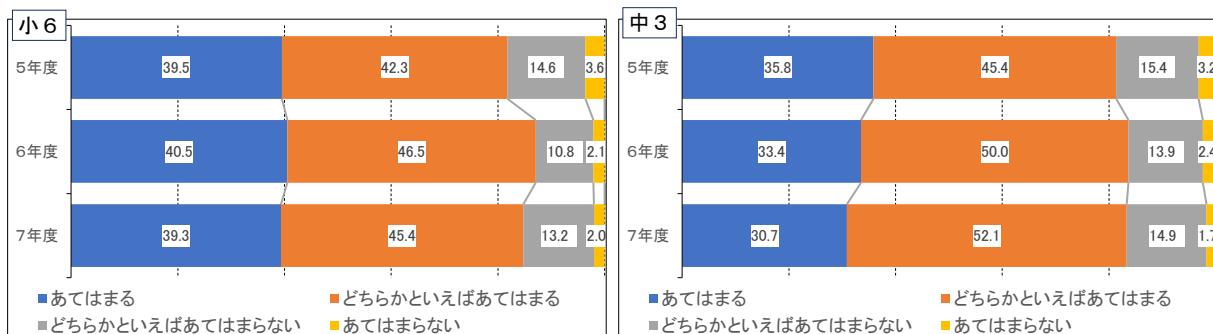


◆ 「主体性」に関わる項目

(27) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

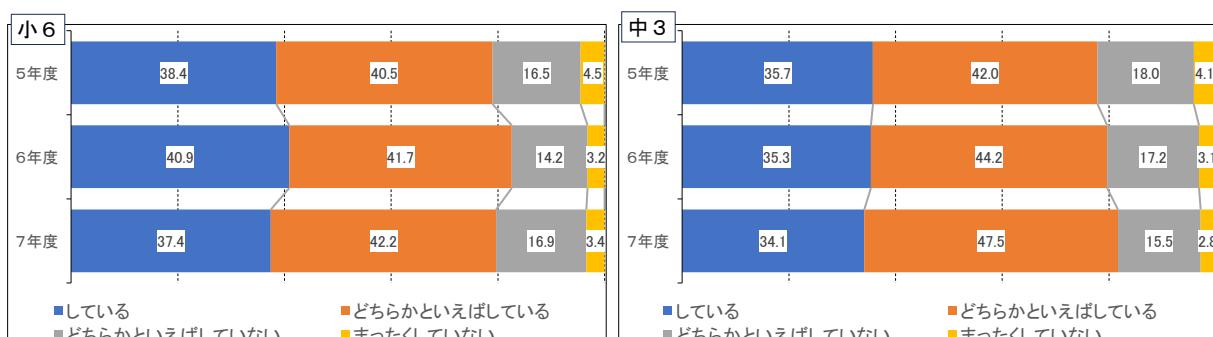


(32) 5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

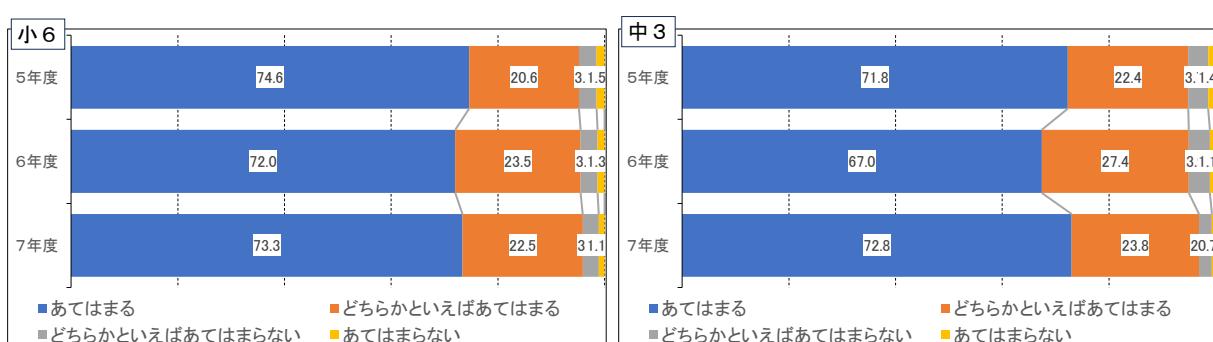


◆ 「自己管理能力」に関わる項目

(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

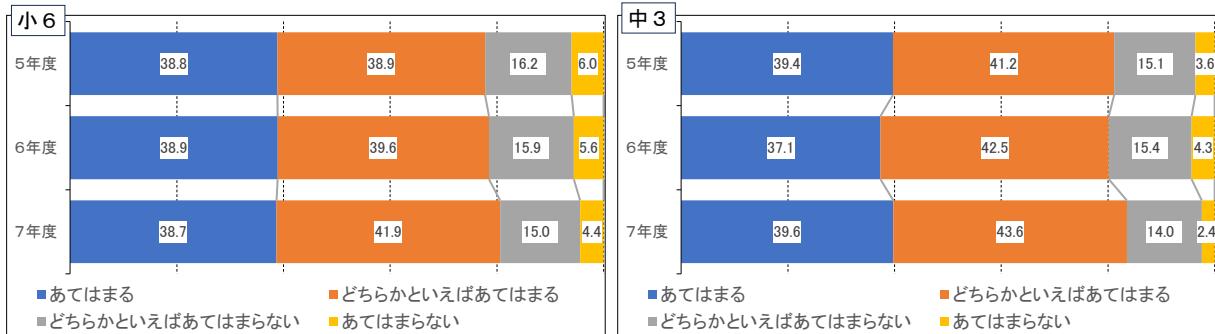


(11) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

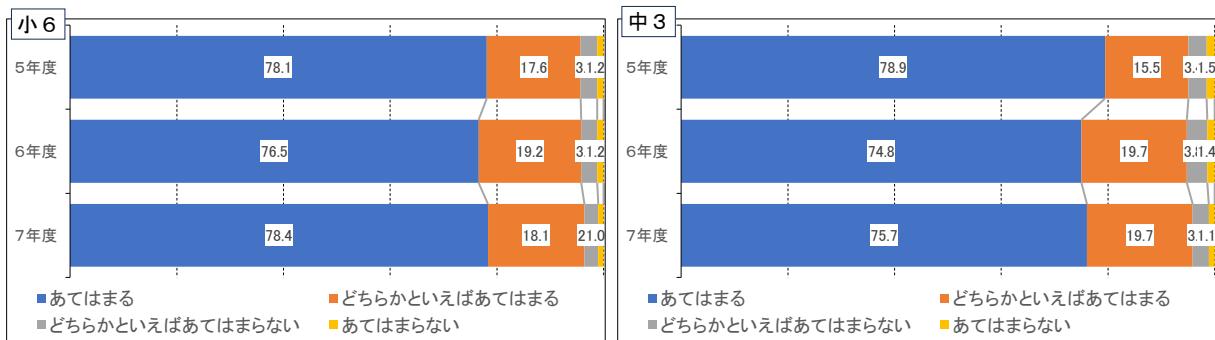


◆ 「感情抑制能力」に関する項目

(13) 自分と違う意見について考へるのは楽しいと思いますか



(9) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



＜調査結果のポイント＞

◆ 「自己肯定感」に関する項目

(5) 「自分には、よいところが…」に肯定的回答をした児童・生徒の割合は小学校88.9%、中学校89.9%で、全国（小学校87.0%、中学校86.2%）と比べ、高い結果となり、3年間の肯定的な回答の状況は小学校、中学校ともに上昇傾向にある。

◆ 「コミュニケーション力」に関する項目

(14) 「友達関係に満足していますか」に肯定的回答をした児童・生徒の割合は、小学校92.5%、中学校92.3%で、全国（小学校90.5%、中学校88.7%）を上回り上昇傾向にある。

◆ 「主体性」に関する項目

(27) 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に肯定的回答をした児童・生徒の割合は、小学校80.4%、中学校74.9%であり、全国（小学校81.3%、中学校75.2%）に比べ下降傾向となつたが、令和6年度と比較し小学校は横ばい、中学校は上昇傾向にある。

◆ 「自己管理能力」に関する項目

(11) 「人の役に立つ人間に…」に肯定的回答をした児童・生徒の割合は、小学校95.8%、中学校96.6%であり、全国（小学校96.4%、中学校96.6%）と比べて同水準である。3年間の肯定的な回答の割合は横ばいだが、令和5年度に比べ肯定的回答のうち「どちらかといえば…」が増加しているのは、全国と同様の傾向である。

◆ 「感情制御能力」に関する項目

(9) 「いじめはどんな理由があっても…」に肯定的回答をした児童・生徒の割合は、小学校96.5%、中学校95.4%であり、全国（小学校97.2%、中学校96.0%）と比べ下降傾向となつたが、令和6年度と比較し小学校は横ばい、中学校は上昇傾向にある。

◇ 総括

「非認知能力」に関する視点の回答を全体的に見ると、年によって多少の増減はあるものの3年間の経年比較では、肯定的な回答が徐々に増加している傾向であるといえる。

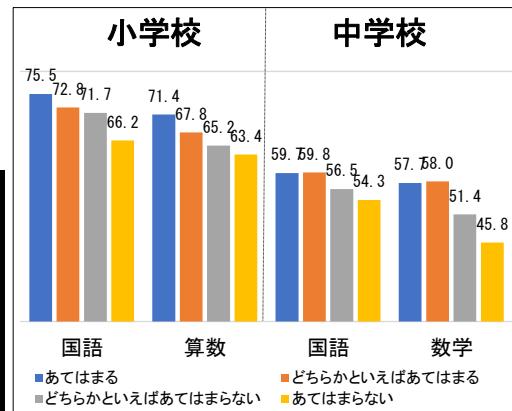
4 クロス集計結果から

*質問紙の回答(1, 2, 3, 4)ごとに抽出した児童・生徒の平均正答率のクロス集計

◆ 「自己肯定感」に関する項目

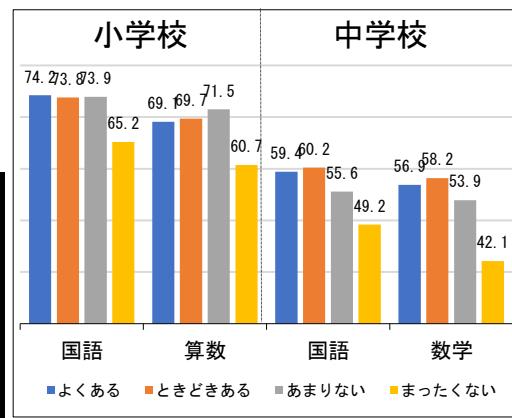
(5) 自分には、よいところがあると思いますか

| 選択肢 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|-------------------|------|------|------|------|------|------|
| | 割合 | 国語 | 算数 | 割合 | 国語 | 数学 |
| 1 あてはまる | 54.5 | 75.5 | 71.4 | 49.6 | 59.7 | 57.7 |
| 2 どちらかといえばあてはまる | 34.4 | 72.8 | 67.8 | 40.3 | 59.8 | 58.0 |
| 3 どちらかといえばあてはまらない | 7.5 | 71.7 | 65.2 | 7.5 | 56.5 | 51.4 |
| 4 あてはまらない | 3.7 | 66.2 | 63.4 | 2.4 | 54.3 | 45.8 |



(15) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

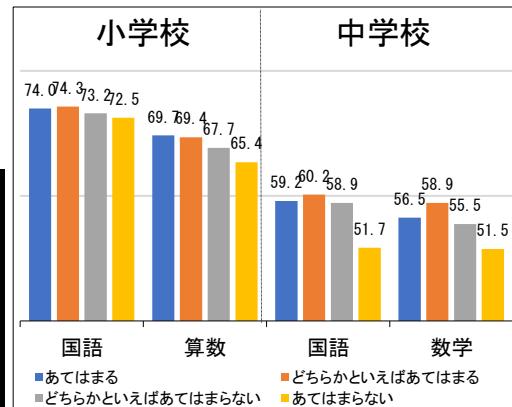
| 選択肢 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|----------|------|------|------|------|------|------|
| | 割合 | 国語 | 算数 | 割合 | 国語 | 数学 |
| 1 よくある | 58.8 | 74.2 | 69.1 | 53.0 | 59.4 | 56.9 |
| 2 ときどきある | 34.7 | 73.8 | 69.7 | 39.8 | 60.2 | 58.2 |
| 3 あまりない | 6.0 | 73.9 | 71.5 | 6.1 | 55.6 | 53.9 |
| 4 まったくない | 0.4 | 65.2 | 60.7 | 0.6 | 49.2 | 42.1 |



◆ 「コミュニケーション力」に関する項目

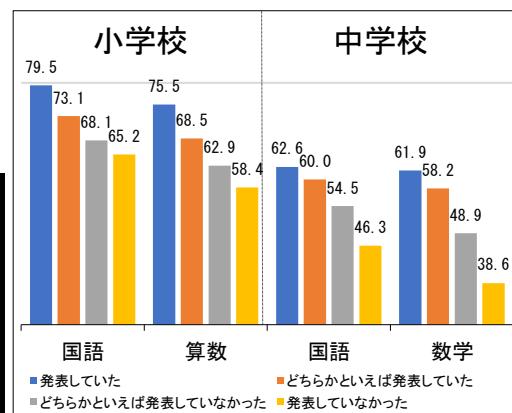
(14) 友達関係に満足していますか

| 選択肢 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|-------------------|------|------|------|------|------|------|
| | 割合 | 国語 | 算数 | 割合 | 国語 | 数学 |
| 1 あてはまる | 66.1 | 74.0 | 69.7 | 60.9 | 59.2 | 56.5 |
| 2 どちらかといえばあてはまる | 26.4 | 74.3 | 69.4 | 31.4 | 60.2 | 58.9 |
| 3 どちらかといえばあてはまらない | 5.9 | 73.2 | 67.7 | 6.3 | 58.9 | 55.5 |
| 4 あてはまらない | 1.6 | 72.5 | 65.4 | 1.0 | 51.7 | 51.5 |



(31) 5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

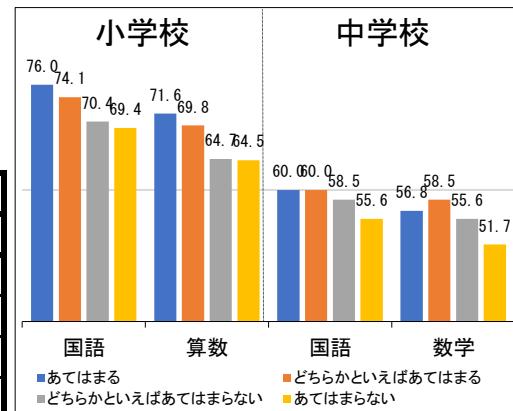
| 選択肢 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|---------------------|------|------|------|------|------|------|
| | 割合 | 国語 | 算数 | 割合 | 国語 | 数学 |
| 1 発表していました | 37.6 | 79.5 | 75.5 | 32.6 | 62.6 | 61.9 |
| 2 どちらかといえば発表していました | 39.1 | 73.1 | 68.5 | 45.8 | 60.0 | 58.2 |
| 3 どちらかといえば発表していなかった | 16.7 | 68.1 | 62.9 | 16.9 | 54.5 | 48.9 |
| 4 発表していなかった | 5.1 | 65.2 | 58.4 | 3.4 | 46.3 | 38.6 |



◆ 「主体性」に関わる項目

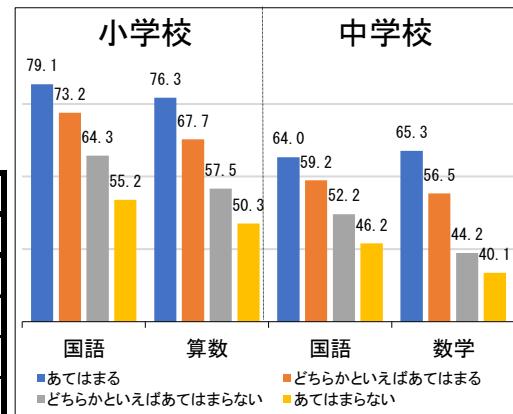
(27) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

| 選択肢 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|-------------------|------|------|------|------|------|------|
| | 割合 | 国語 | 算数 | 割合 | 国語 | 数学 |
| 1 あてはまる | 34.1 | 76.0 | 71.6 | 25.3 | 60.0 | 56.8 |
| 2 どちらかといえばあてはまる | 46.3 | 74.1 | 69.8 | 49.6 | 60.0 | 58.5 |
| 3 どちらかといえばあてはまらない | 13.9 | 70.4 | 64.7 | 19.0 | 58.5 | 55.6 |
| 4 あてはまらない | 5.6 | 69.4 | 64.5 | 5.8 | 55.6 | 51.7 |



(32) 5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

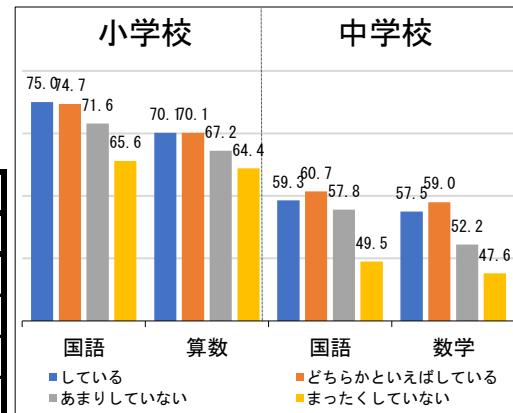
| 選択肢 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|-------------------|------|------|------|------|------|------|
| | 割合 | 国語 | 算数 | 割合 | 国語 | 数学 |
| 1 あてはまる | 39.3 | 79.1 | 76.3 | 30.7 | 64.0 | 65.3 |
| 2 どちらかといえばあてはまる | 45.4 | 73.2 | 67.7 | 52.1 | 59.2 | 56.5 |
| 3 どちらかといえばあてはまらない | 13.2 | 64.3 | 57.5 | 14.9 | 52.2 | 44.2 |
| 4 あてはまらない | 2.0 | 55.2 | 50.3 | 1.7 | 46.2 | 40.1 |



◆ 「自己管理能力」に関わる項目

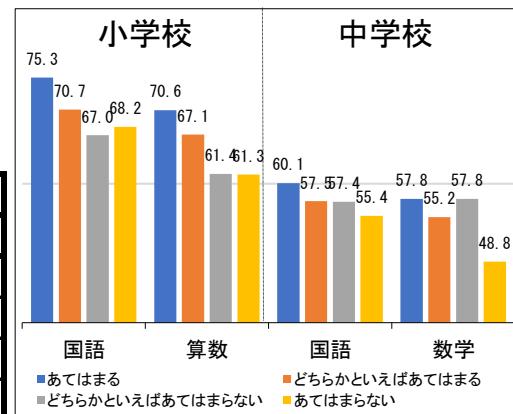
(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

| 選択肢 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|----------------|------|------|------|------|------|------|
| | 割合 | 国語 | 算数 | 割合 | 国語 | 数学 |
| 1 している | 37.4 | 75.0 | 70.1 | 34.1 | 59.3 | 57.5 |
| 2 どちらかといえばしている | 42.2 | 74.7 | 70.1 | 47.5 | 60.7 | 59.0 |
| 3 あまりしていない | 16.9 | 71.6 | 67.2 | 15.5 | 57.8 | 52.2 |
| 4 まったくしていない | 3.4 | 65.6 | 64.4 | 2.8 | 49.5 | 47.6 |



(11) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

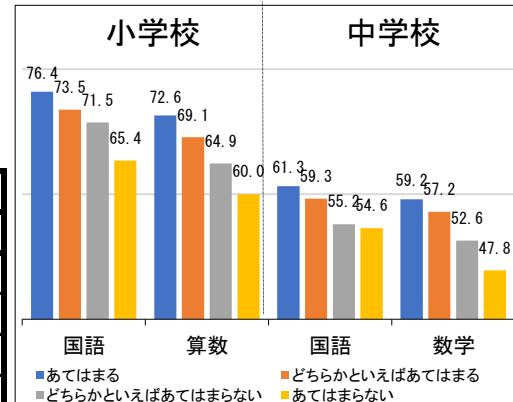
| 選択肢 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|-------------------|------|------|------|------|------|------|
| | 割合 | 国語 | 算数 | 割合 | 国語 | 数学 |
| 1 あてはまる | 73.3 | 75.3 | 70.6 | 72.8 | 60.1 | 57.8 |
| 2 どちらかといえばあてはまる | 22.5 | 70.7 | 67.1 | 23.8 | 57.5 | 55.2 |
| 3 どちらかといえばあてはまらない | 3.0 | 67.0 | 61.4 | 2.4 | 57.4 | 57.8 |
| 4 あてはまらない | 1.1 | 68.2 | 61.3 | 0.7 | 55.4 | 48.8 |



◆ 「感情抑制能力」に関する項目

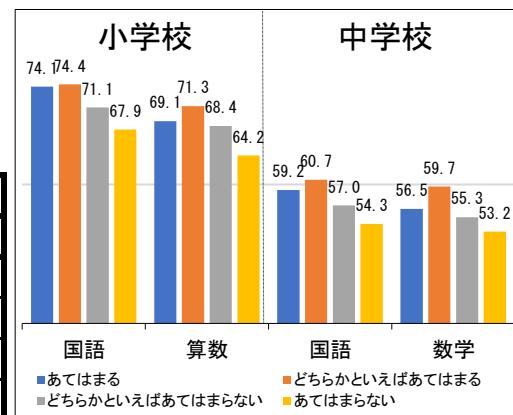
- (13) 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いませんか

| 選択肢 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|-------------------|------|------|------|------|------|------|
| | 割合 | 国語 | 算数 | 割合 | 国語 | 数学 |
| 1 あてはまる | 38.8 | 76.4 | 72.6 | 39.6 | 61.3 | 59.2 |
| 2 どちらかといえばあてはまる | 41.9 | 73.5 | 69.1 | 43.6 | 59.3 | 57.2 |
| 3 どちらかといえばあてはまらない | 14.9 | 71.5 | 64.9 | 14.0 | 55.2 | 52.6 |
| 4 あてはまらない | 4.3 | 65.4 | 60.0 | 2.4 | 54.6 | 47.8 |



- (9) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

| 選択肢 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|-------------------|------|------|------|------|------|------|
| | 割合 | 国語 | 算数 | 割合 | 国語 | 数学 |
| 1 あてはまる | 78.4 | 74.1 | 69.1 | 75.7 | 59.2 | 56.5 |
| 2 どちらかといえばあてはまる | 18.1 | 74.4 | 71.3 | 19.7 | 60.7 | 59.7 |
| 3 どちらかといえばあてはまらない | 2.6 | 71.1 | 68.4 | 3.0 | 57.0 | 55.3 |
| 4 あてはまらない | 1.0 | 67.9 | 64.2 | 1.1 | 54.3 | 53.2 |



＜調査結果のポイント＞

◆ 「自己肯定感」に関する項目

(15) 「普段の生活の中で、幸せな気持ちに…」では、回答群「まったくない」 小学校0.4%、中学校0.6%の平均正答率が低い。このことから幸福感が低いと感じている児童・生徒ほど、小・中学校段階での平均正答率が低い傾向がある。

◆ 「コミュニケーション力」に関する項目

(14) 「友達関係に満足していますか」では、中学校質問紙調査の回答群「あてはまる」 60.9%より、回答群「どちらかといえばあてはまる」 31.4%の方が、国語、数学とも平均正答率が高い。同様に、小学校質問紙調査の回答群「あてはまる」 66.1%より、回答群「どちらかといえばあてはまる」 26.4%の方が、国語の平均正答率が高い。

◆ 「主体性」に関する項目

(31) 「5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業で…」では、肯定的な回答をした児童・生徒の方が、平均正答率が高い。したがって、授業の中で発表するときに、自分なりの工夫をしたと感じている児童・生徒ほど、学力が高い傾向がある。

◆ 「自己管理能力」に関する項目

(32) 「5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業では…」では、肯定的な回答をした児童・生徒の方が、より平均正答率が高い。したがって、授業の中で自分で課題意識をもち、課題解決に向けて考えたと感じている児童・生徒ほど、学力が高い傾向がある。

(2) 「毎日、同じくらいの…」では、肯定的な回答をした児童・生徒の方が平均正答率が高く、「まったくない」と回答した児童・生徒の平均正答率が低い傾向が見られる。

◆ 「感情制御能力」に関する項目

(13) 「自分と違う意見について…」では、肯定的な回答をした児童・生徒の方が平均正答率が高い。

◇総括

クロス集計結果の分析から、全体としては「肯定的な回答をした児童・生徒の方が平均正答率が高くなる傾向」、また「否定的な意識を強く持つと、平均正答率が低くなる傾向」を読み取ることができ、非認知能力と認知能力について相関関係があると考察される。

本報告書における非認知能力に関する分析は、質問紙調査の回答を基にしたものであり、非認知能力の一側面を示したものに過ぎません。非認知能力は多面的で複雑な概念であるため、引き続き経年変化を把握し、分析してまいります。